

平成 29 年冬季ボーナスアンケート調査

今冬のボーナス予想支給額は、2年連続で改善（マイナス幅が縮小）
～民間（製造業、非製造業）はほぼ横ばい～

平成 29 年冬季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを官公庁・民間企業で勤務する給与所得世帯を対象にアンケート調査を行いました。

【ポイント】

ボーナス支給額の増減予想（昨年冬比）

全体では、「上回る」が 11.6%、「下回る」が 14.2%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は 2.6（昨年冬 4.7）と、2年連続でマイナス幅が縮小し、改善した。民間企業では、製造業、非製造業ともにほぼ横ばいとなった。年代別では、10・20代、30代が悪化し、40代、50代以上は改善した。

ボーナス予想支給額

特に「20万円未満」の割合が減少した。『60万円以上』の割合は昨年冬との比較ではほぼ横ばいとなった。

ボーナスの使い道

首位は「預貯金」と堅実な姿勢が続く。「借入金返済」が減少するなかで、消費関連項目がわずかながら増加しており、総じてみると家計の消費支出には改善の兆しがみられた。

ボーナスを貯蓄する目的

「老後の生活への備え」が最多となり、上位3位までの順位に変動はなかった。生活防衛の意識がやや和らぎ、計画的な出費に向け貯蓄する動きもみられた。

ボーナスの運用方法

「銀行普通預金」が7割を超え、最多となった。リスク性商品の回答割合は昨年冬と比べ、増加した。

【調査概要】

1. 期 間：平成 29 年 11 月 1 日～11 月 17 日
2. 対 象：鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法：山陰合同銀行本支店の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,450 枚）、返信用封筒にて回収
4. 回 答 数：有効回答数 550 枚（回収率 22.4%）
（県別内訳：鳥取県 264 枚、島根県 283 枚、その他 1 枚、不明 2 枚）